

帯屋町商店街の景観認識について

1180444 竹田 菜生

高知工科大学マネジメント学部

1 概要

現在、全国の中心市街地の多くが衰退の一途をたどっている。高知県の中心市街地に位置する帯屋町商店街は、かつて高知の中心地、城下町として栄えていたが、近年は歩行者通行量の減少や、全年代、訪れる頻度が減少しているという現状にある。そうした中、様々な取り組みによりここ数年は回復傾向にあるが、かつての賑わいを取り戻しているとはいえない。

帯屋町商店街に対する市民の意見では、交通アクセスの利便性を訴える意見が多い中、雰囲気や景観に関する意見も含まれていた。よって、本研究では高知工科大学の学生を対象に景観評価実験を実施し、条件による景観認識の違いを明らかにすることを目的とした。好ましいと思われる景観と、好ましくないと思われる景観を分析し、人が集まるためにはどのような景観であるのが望ましいかを考察した。

その結果、「ゴミが散乱していない」「自転車が整理整頓されている」「光が多く取り込まれたアーケード」「様々な世代の人が行き交う商店街」「緑のある商店街」「シャッター店のない商店街」「賑わい、活気のある商店街」「装飾などにより高知県を感じられる商店街」が望ましいと考えられた。

2 背景

近年、全国の中心市街地の多くが衰退傾向にあることが危惧されている。

高知市の中心市街地は、山内一豊が城を築き上げ、歴代の藩主が城下町を構築して以来、高知の歴史や文化を長年保持しながら土佐の政治、経済、文化の中心地として発展してきた。しかし、中心市街地にある帯屋町商店街ではイオンモール高知といった大型ショッピングセンターの進出により衰退傾向にあったが、高知工科大学・高知県立大学の永国時キャンパスの建設や帯屋町 CENTRO の建設といった取り組みにより回復傾向にある。

しかし、このような地域活性の努力が行われている中で、

高知市の中心市街地の歩行者通行量は、徐々に回復傾向にあるものの、平成 18 年の水準には及んでいない。さらに、帯屋町商店街に関するアンケート調査によると、市民の意見の中には、「商店街に活気がない」、「暗い雰囲気」、「公園の整備や街路樹の植樹など緑の緑化」など、景観に関する意見が含まれている。

このことから、帯屋町商店街は景観的な側面から見て魅力がないと思われるされており、これによって商店街を訪れたいと思われない理由があるのではないかと考えられる。よって、帯屋町商店街の集客を考える場合、どの景観が好まれるか、行きたいと思わせるかを把握することが必要である。そこで、帯屋町商店街の中で、人がそれぞれ注目する景観認識の違いを明らかにすることで、帯屋町景観の今後の発展に貢献できる可能性が考えられる。

3 目的

本研究は、帯屋町 1 丁目（帯屋町 1 丁目商店街・壱番街商店街）を対象とし、景観評価アンケートから、条件によって注目する景観認識の違いを明らかにすること、時間、イベント、男女別に分析することで、好ましいと思われる景観や、好ましくないと思われる景観など、より詳細なデータを抽出することを目的とする。

4 研究手順

まず初めに、高知市ホームページや、高知市中心市街地活性化基本計画（H24）から、帯屋町商店街に関する情報を収集、現状を把握する。そこから、中心市街地の賑わいにおける近年の傾向を分析し、課題を抽出する。それと並行して、過去、景観評価実験を実施した例がある先行研究を調査し、本研究で実施するアンケートの景観評価方法、実験方法を検討する。そして、高知工科大学の学生男女約 30 名に景観評価アンケートを実施し、結果を男女別・時間別・イベント別で比較する。最後に、条件別に比較した結果から、景観認識

の違いを明らかにする。

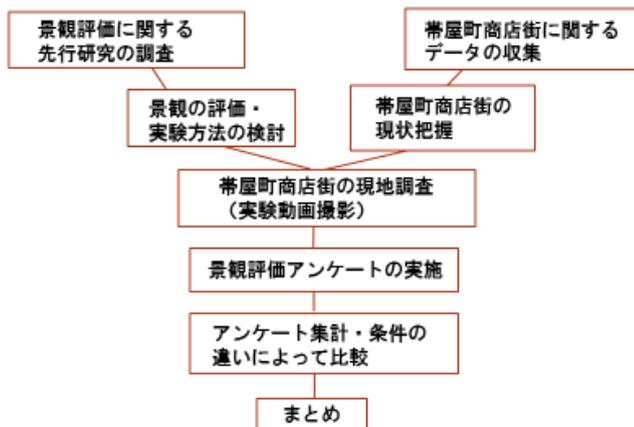


図1 研究手順のフロー

5 景観評価に関する先行研究

景観評価に関する先行研究のなかに『京都を事例とした景観評価実験と眼球運動の測定による好ましい屋上緑化形態の検討』(田中健、村上大輔、下村孝、2008)という研究がある。この研究は京都を対象として、景観評価実験から、好ましいと思われる屋上緑化のデザインを明らかにした。実験では、屋上の緑化形態4パターンと、その背景となる景観4パターンをそれぞれ組み合わせ合わせて合成した画像を用いて、8つの景観評価項目をそれぞれ7段階で評価させた。さらに、実験中の被験者の眼球運動も解析した。その結果、京都では「屋上の緑量が多い・和風である・街並みとの調和がとれている」この条件がそろった屋上緑化形態が好ましいと思われることを明らかにした。

さらに、『観光者の景観認識とその空間的傾向の分析』(杉本興運、2010)という研究では、東京都日比谷公園をフィールドとして、観光者が好ましく思う景観と、その空間的傾向が分析された。この研究の実験方法は、20代から60代の男女13名に、GPSとデジタルカメラを携帯させ、園内の写真を自由に撮影してもらおうというものだった。その撮影データと撮影された地点の密集度、実験後のアンケート調査より、観光者は〈構造物〉などのはっきりした対象を認識し、花壇・池がある地点を高く評価する傾向にある、ということを明らかにした。

ほかにも、『都市における俯瞰夜景の景観認識に関する基礎的研究』(乙部暢宏、鍵野壮宏、後藤春彦、李永桓、李

彰浩、2006)では、ビデオ映像を使用して被験者にイメージスケッチをしてもらい、マップ作成をした後、景観評価実験を行うという研究方法があった。

景観評価に関する先行研究では、都市計画や地域活性化計画、街路や観光地を対象にした研究などさまざまであるが、【男女差】【時間差】などを一つの地点で詳細なデータを明らかにしている研究は見受けられなかった。したがって、本研究では帯屋町一丁目商店街のアーケードをフィールドとして、より詳細なデータを比較することを目的とした。

本研究では、これらの先行研究を参考に、景観評価アンケートの作成、景観評価実験の進め方を選定した。

6 帯屋町商店街の現状

6-1 帯屋町1丁目・壱番街商店街の店舗構成

本研究で使用する実験映像と地図を照らし合わせ、研究対象内の店舗数とその構成を示した。(表1)大きく、【衣類関連店】【飲食店】【住関連店】【百貨店】【コンビニ】【ドラッグストア】に分類することとした。その中でも、衣類関連店は【若年層向け衣類店】【高齢層向け衣類店】に、飲食店は【カジュアル飲食店】【居酒屋】とそれぞれ2つに分けて店舗構成を明らかにした。その結果、若年層向け衣類店が22店舗と一番多く、次いで居酒屋が14店舗となっており、若者や中高年の人が利用する店舗が多い構成だと考えられる。

表1 帯屋町商店街の店舗構成

		店舗数
衣類関連店	若年層向け衣類店	22
	高齢層向け衣類店	12
飲食店	カジュアル飲食店	11
	居酒屋	14
住関連店		10
百貨店		3
コンビニ		2
ドラッグストア		5

6-2 市民の中心市街地へ訪れる頻度

高知市中心市街地活性化基本計画(H28変更)によると、高知市民を対象としたアンケートで年齢別の中心市街地

へ行く頻度が調査されていた。図2をみると、20代～70代の全年代で、どの年代も最低60%以上の人が、訪れる頻度は減った・どちらかといえば減ったと回答していた。これは、多くの市民が帯屋町商店街に訪れる頻度が減っていることを示している。年代別にみると、特に30代・40代で、訪れる頻度が減ったと回答した人の割合が高かった。

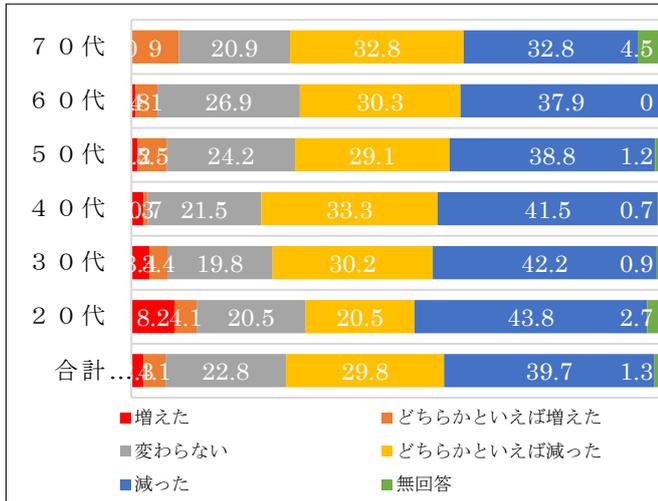


図2 年齢別の中心市街地へ訪れる頻度の増減
(参考：高知市中心市街地活性化基本計画より筆者作成)

6-3 中心市街地の歩行者通行量

平成14年と平成23年の歩行者通行量の比較をみると、平日、休日ともに通行量が増加した地点は見られなかった。特に、帯屋町1丁目商店街内に位置する稲門スポーツ前、ダイマルウエスト前は平成14年の半分以下の通行量まで減少していた。

しかし、平成28年認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告(高知県HPより)によると、平成25年頃から、中心市街地の歩行者通行量が徐々に増えていくという結果が出ていた。これは、高知工科大学・高知県立大学の永国寺キャンパスや、帯屋町CENTROが建設されたことで人通りが増加したものと考えられる。しかし、図3の通り、最も栄えていた平成18年の数値には及んでおらず、かつての賑わいを取り戻しているとはいえない。

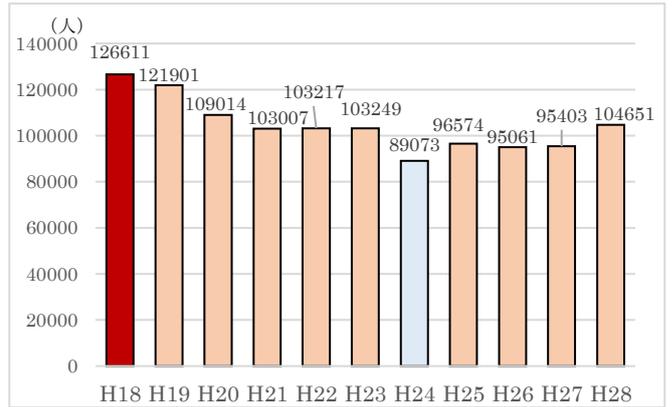


図3 中心市街地歩行者通行量(平日・休日合計/14地点)
(参考：平成28年認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告より筆者作成)

6-4 高知市中心市街地に関する自由意見

中心市街地に対する自由意見の上位は駐車場の無料化を望む意見や、交通アクセスの利便性向上を求める意見が多くなっていった。しかし、下の順位まで幅広く見てみると「商店街の活気」「明るい雰囲気」「街の緑化」を求める意見など、景観に関する内容が含まれていた。このことから、帯屋町商店街に「行きたい」と思われない理由の一つに、帯屋町商店街の景観が関係しているのではないかと考えた。

7 景観評価実験

7-1 景観評価実験の概要

本研究の目的である、「条件の違いによって注目する景観認識の違いを明らかにする」と、「好ましいと思われる景観・好ましくないと思われる景観などより詳細なデータを抽出する」ために、景観評価実験を行い、景観評価アンケートを取った。

また、人が景観を評価する際には、【機能・環境】【感情】【調和・美観】【自然・人間】【都市性】【文化】の6つの要素がもとになっていることがわかった。

したがって、本研究の景観評価実験で使用するアンケートの内容は、上記6つの面から評価が行えるよう作成した。

7-2 実験方法

◇ 対象地域

高知市帯屋町1丁目のアーケード
(帯屋町1丁目商店街・壱番街商店街)

◇ 実験映像

自転車前方にビデオカメラを固定し、アーケード内を歩いて撮影したものを使用した。時間は、各動画約6分～7分程度となった。

◇ 撮影日

昼の景観・・・2017/11/1 11:00

夜の景観・・・2017/11/7 18:00

クリスマス装飾時の昼の景観・・・2017/12/22 12:30

クリスマス装飾時の夜の景観・・・2017/12/21 18:00

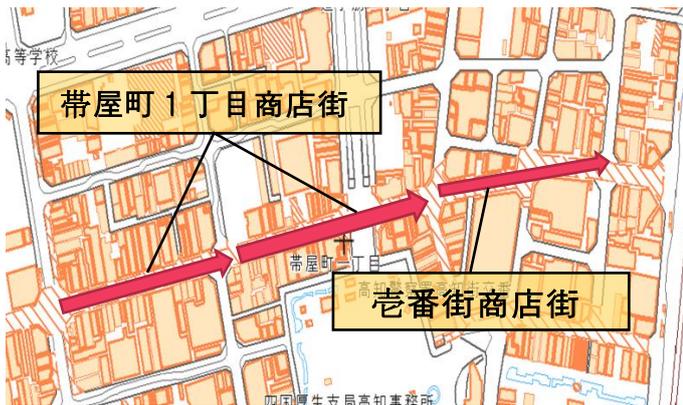


図4 実験映像のルート



写真1 実験映像の一部

◇ 実験対象者

高知工科大学の学生・男性15名 女性14名

(4回生・・・6名 3回生・・・10名 1回生・・・13名)

本研究の景観評価実験は実際に対象地域を歩いてもらうのではなく、ビデオ映像でおこなう事とした理由は、被験者が固まって行動してしまうのを防ぐためである。よって、被験者にビデオ映像を見せながら一人一人景観評価アンケートに回答してもらった。

7-3 アンケート内容

一つ目に、人が景観を評価する主要要素を取り入れた項目を、(非常に・やや・どちらでもない・あまり・全く)の5段階で評価してもらう。項目は【安心感がある】【綺麗】【好き】【行きたい】【華やか】【個性的な】【すっきりした】【親しみやすい】【開放的】【明るい】【自然らしさがある】【非日常的】【温かみがある】【生命感を感じる】【都会的】【賑やか】【高知らしさがある】【現代的な】の18項目である。

二つ目に、実験映像をみて、好ましいと思った景観・好ましくないと思った景観を自由記述してもらった。

8 アンケート結果

8-1 昼の景観：男女差

18項目中、9項目において男性の評価が高かった。特に差が出たのは【好き】という項目で、女性の約1.6倍、高評価をつけた人が多かった。

その中でも、女性は特に【すっきりした】【親しみやすい】【高知らしさがある】の項目において、高評価をつけた人が多かった。【高知らしさがある】に関しては男性の1.3倍、【すっきりした】に関しては男性の2倍以上評価が高かった。

8-2 夜の景観：男女差

18項目中、16項目において男性の評価が高かった。【好き】【行きたい】【華やか】【個性的な】【開放的】【非日常的】【生命感を感じる】【都会的】【賑やか】の9項目においては、どの項目も女性の2倍以上評価が高かった。また、男性の【好き】【行きたい】【親しみやすい】の項目では、「あまりそう思わない・全くそう思わない」と答えた人は一人もいなかった。

表2 昼の景観・夜の景観の男女差

	男性のほうが評価が高くなった項目	女性のほうが評価が高くなった項目
昼	<ul style="list-style-type: none"> 安心感がある・好き 行きたい・明るい 温かみがある・都会的・賑やか 現代的な・自然らしさがある 	<ul style="list-style-type: none"> 綺麗 華やか・すっきりした 親しみやすい・開放的 非日常的・生命感を感じる 高知らしさがある
夜	<ul style="list-style-type: none"> 安心感がある・好き 行きたい・明るい 温かみがある・都会的・賑やか 華やか・個性的な・すっきりした 親しみやすい・開放的・非日常的 生命感を感じる 高知らしさがある 	<ul style="list-style-type: none"> 綺麗 現代的な

8-3 女性からみた景観：時間差

18 項目中、10 項目において昼の評価が高かった。夜の、【安心感がある】【好き】【行きたい】【すっきりした】【開放的】【自然らしさがある】【高知らしさがある】の 7 項目に関しては、高評価をつけた人は昼の半分にまで減少していた。総合的にみると、夜の景観のほうは全体的に評価が下がっているが、夜の景観の中でも、【綺麗】【明るい】といった項目に高評価をつけた人が多かった。

8-4 男性からみた景観：時間差

18 項目中、14 項目において夜の評価が高かった。夜の景観で、昼の景観よりも著しく結果が上昇したのは【華やか】【生命感を感じる】【都会的】【賑やか】の項目であった。特に【華やか】の項目に関しては、昼では高評価が 0% だったのに対し夜では 54% まで増加している。後の 3 つの項目に関しても、昼の 2 倍以上にまで増加した。

表 3 女性から見た景観・男性から見た景観の時間差

	昼のほうの評価が高くなった項目	夜のほうの評価が高くなった項目
女性	<ul style="list-style-type: none"> 安心感がある・綺麗 すっきりした・親しみやすい 自然らしさがある 高知らしさがある 	<ul style="list-style-type: none"> 華やか・個性的な 明るい 非日常的・都会的 賑やか・現代的な
男性	<ul style="list-style-type: none"> 安心感がある・綺麗 すっきりした・親しみやすい 自然らしさがある 高知らしさがある 	<ul style="list-style-type: none"> 華やか・個性的な・明るい 非日常的・都会的・賑やか 現代的な

8-5 平日昼とクリスマス装飾時昼の比較：女性

18 項目中 12 項目においてクリスマスの評価が高かった。特に【安心感がある】【華やか】【親しみやすい】【明るい】【温かみがある】といった項目で評価が高くなったことが見て取れた。しかし、【好き】【行きたい】の高評価の割合にはあまり変化がみられず、アーケード内の左右の広告がクリスマス仕様変わったこともあり、【高知らしさがある】を高評価する人の割合が減少していた。

8-6 平日昼とクリスマス装飾時昼の比較：男性

18 項目中 12 項目においてクリスマスの評価が高かった。特に【綺麗】【華やか】【非日常的】【賑やか】といった項目

で、高評価をした人の割合が増えていた。平日よりクリスマス装飾時のほうが評価の上がった項目が増えたのにも関わらず、【好き】【行きたい】に関しては減少していた。

表 4 平日昼の景観・クリスマス装飾時昼の景観の比較

	平日のほうの評価が高くなった項目	クリスマスのほうが評価が高くなった項目
女性	<ul style="list-style-type: none"> 行きたい 自然らしさがある 高知らしさがある 	<ul style="list-style-type: none"> 綺麗・華やか・個性的な・開放的 親しみやすい・明るい 温かみがある・生命感を感じる 賑やか・現代的な
男性	<ul style="list-style-type: none"> 行きたい 自然らしさがある 高知らしさがある 	<ul style="list-style-type: none"> 綺麗・華やか・個性的な・開放的 親しみやすい・明るい 温かみがある・生命感を感じる 賑やか・現代的な

8-7 平日夜とクリスマス装飾時夜の比較：女性

18 項目中 10 項目において、平日の評価が高かった。しかし、【好き】【行きたい】【賑やか】の項目に関しては、平日の 2 倍以上、クリスマスのほうの評価が高くなっていった。また、クリスマス夜の【綺麗】【好き】【行きたい】の項目では、「あまりそう思わない・全くそう思わない」と答えた人は一人もいなかった。

クリスマス夜の景観に関して、【個性的な】【非日常的】【都会的】の項目で、「とてもそう思う・ややそう思う」と答えた人は一人もいなかった。

8-8 平日夜とクリスマス装飾時夜の比較：男性

18 項目中 10 項目において平日の評価が高かった。その中でも特に、【個性的な】【開放的】【現代的な】の項目に関してはクリスマス夜の 2 倍以上評価が高かった。【個性的な】という項目に関しては、クリスマス夜の結果で（とてもそう思う・ややそう思う）と答えた人は一人もいなかったため、多くの人が【平凡な】景観であると認識していることがわかる。

表5 平日夜の景観・クリスマス装飾時夜の景観の比較

	平日のほうが評価が高くなった項目	クリスマスのほうが評価が高くなった項目
女性	<ul style="list-style-type: none"> ・個性的な・都会的・明るい ・高知らしさがある・現代的な ・綺麗・華やか・非日常的 ・温かみがある ・生命感を感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感がある・親しみやすい ・自然らしさがある ・好き・行きたい ・すっきりした ・開放的・賑やか
男性	<ul style="list-style-type: none"> ・個性的な・都会的・明るい ・高知らしさがある・現代的な ・好き・行きたい ・すっきりした ・開放的・賑やか 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感がある・親しみやすい ・自然らしさがある ・綺麗・華やか・非日常的 ・温かみがある ・生命感を感じる

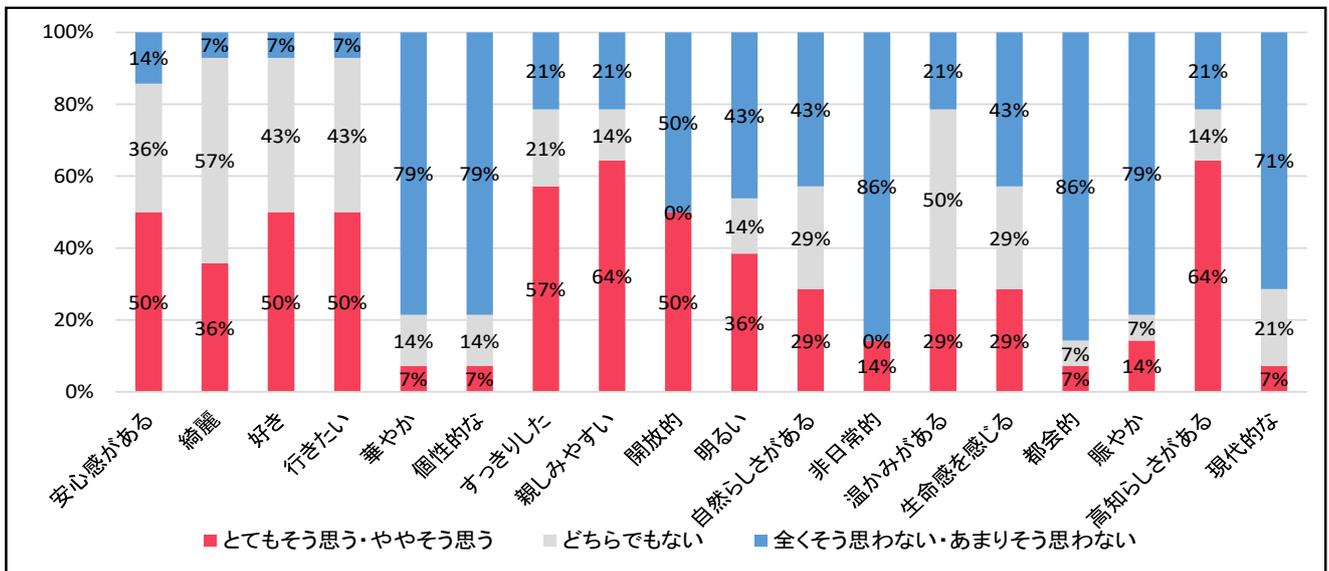


図5 平日昼の景観：女性

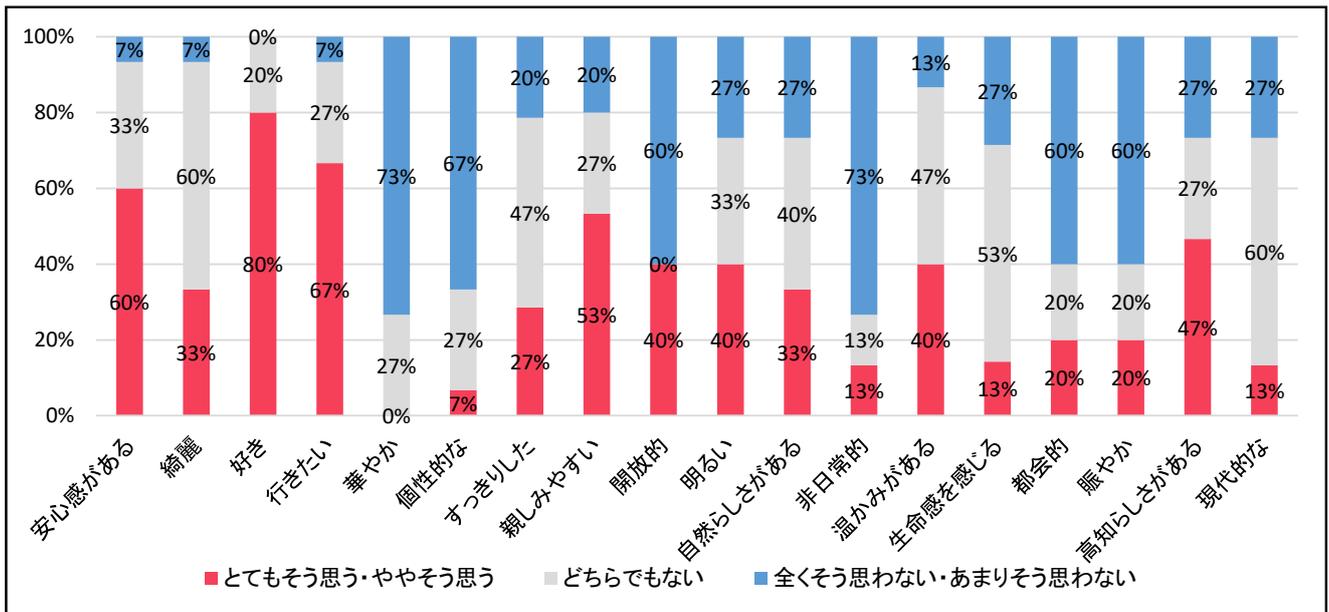


図6 平日昼の景観：男性

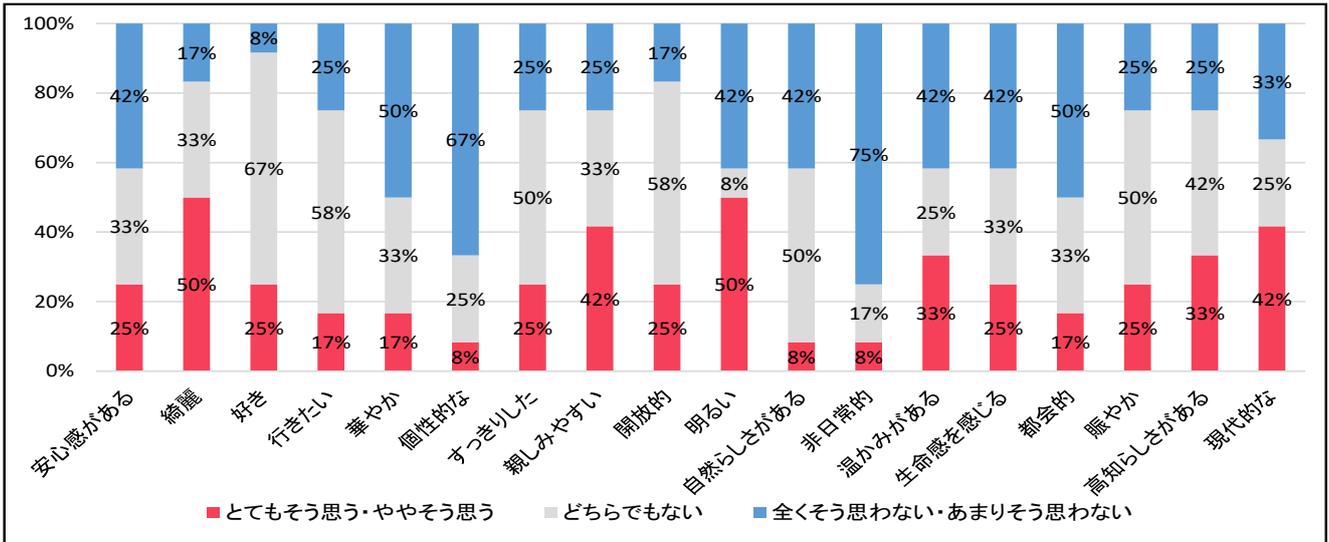


図7 平日夜の景観：女性

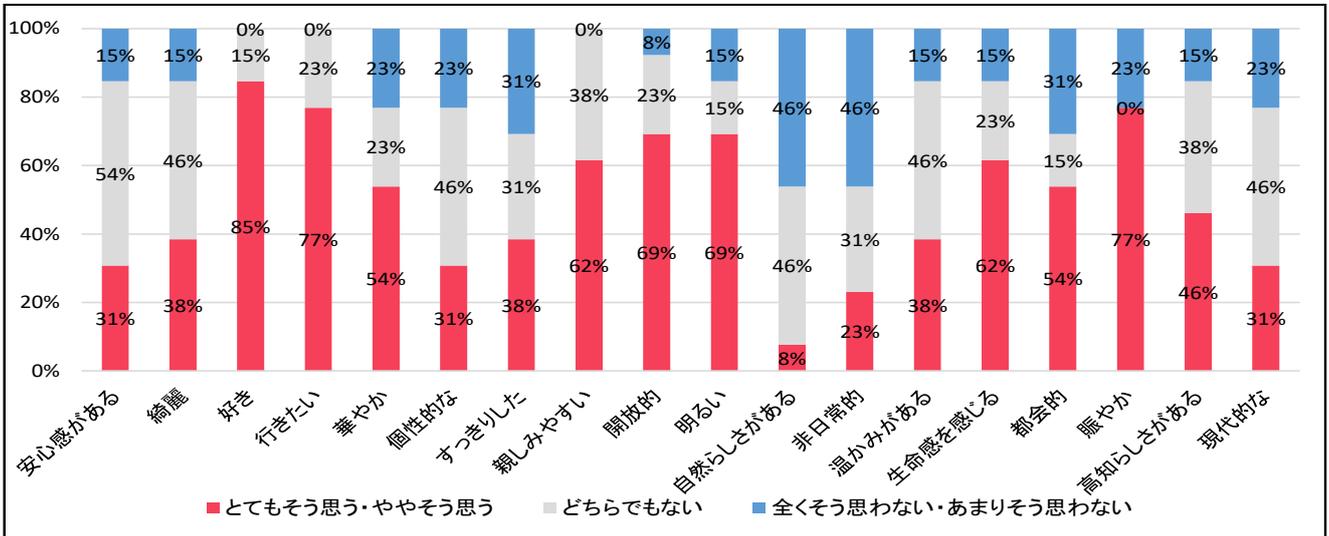


図8 平日夜の景観：男性

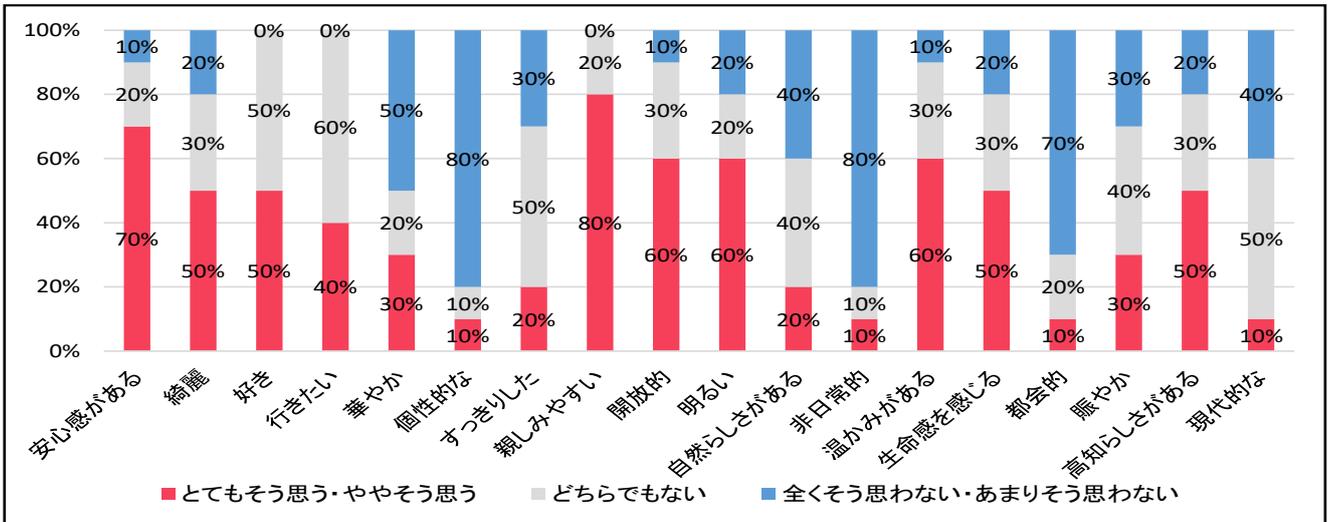


図9 クリスマス装飾時昼の景観：女性

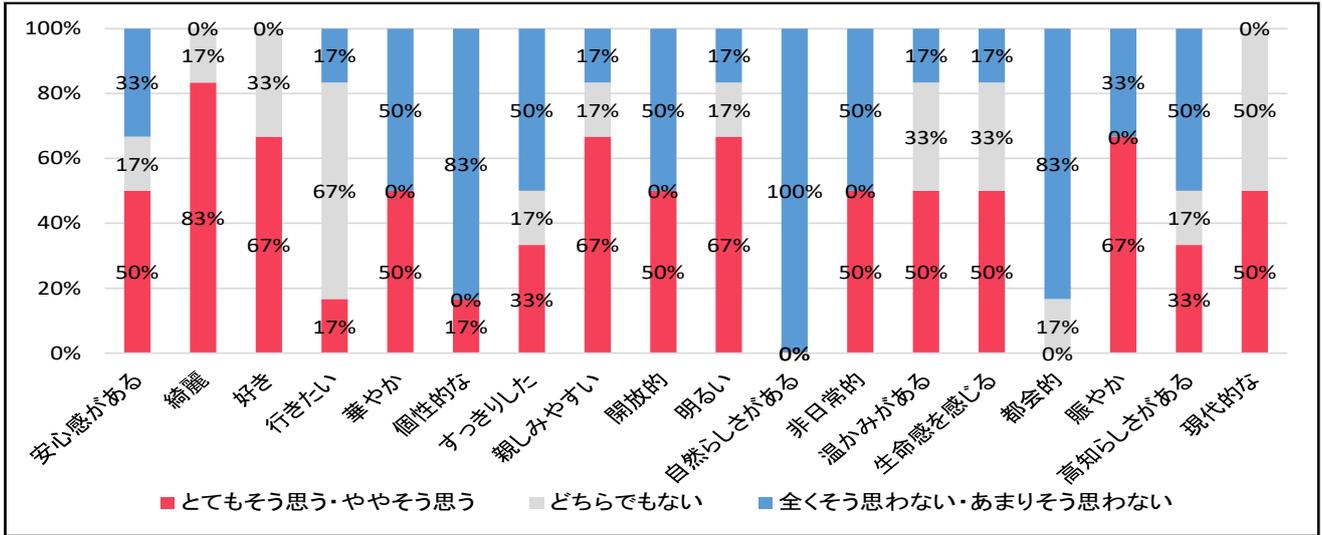


図10 クリスマス装飾時昼の景観：男性

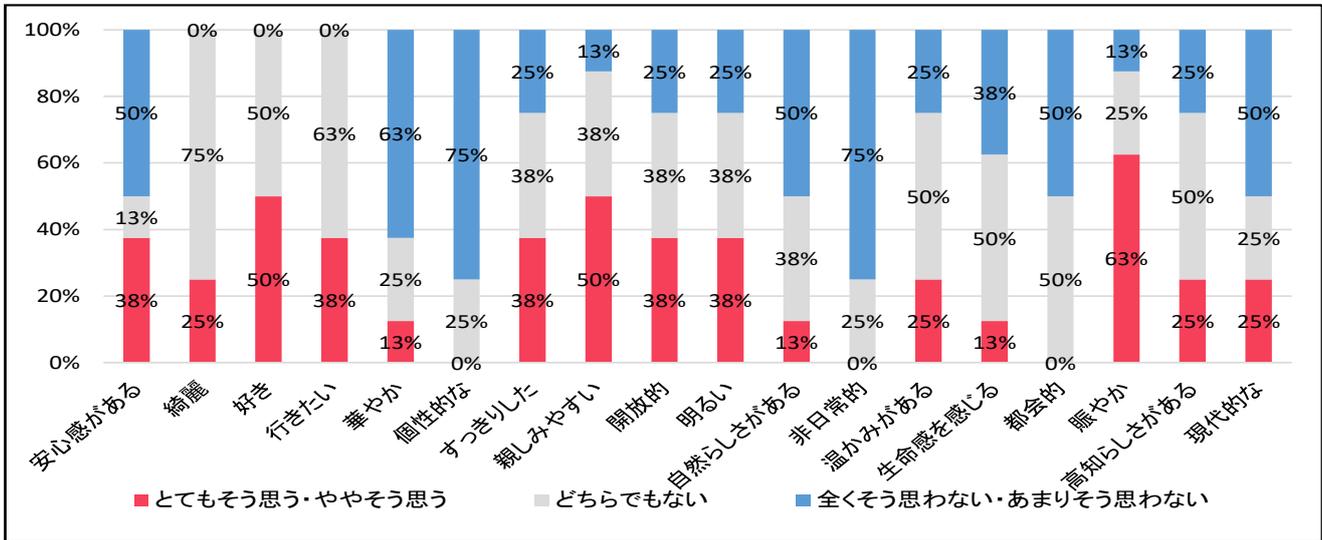


図11 クリスマス装飾時夜の景観：女性

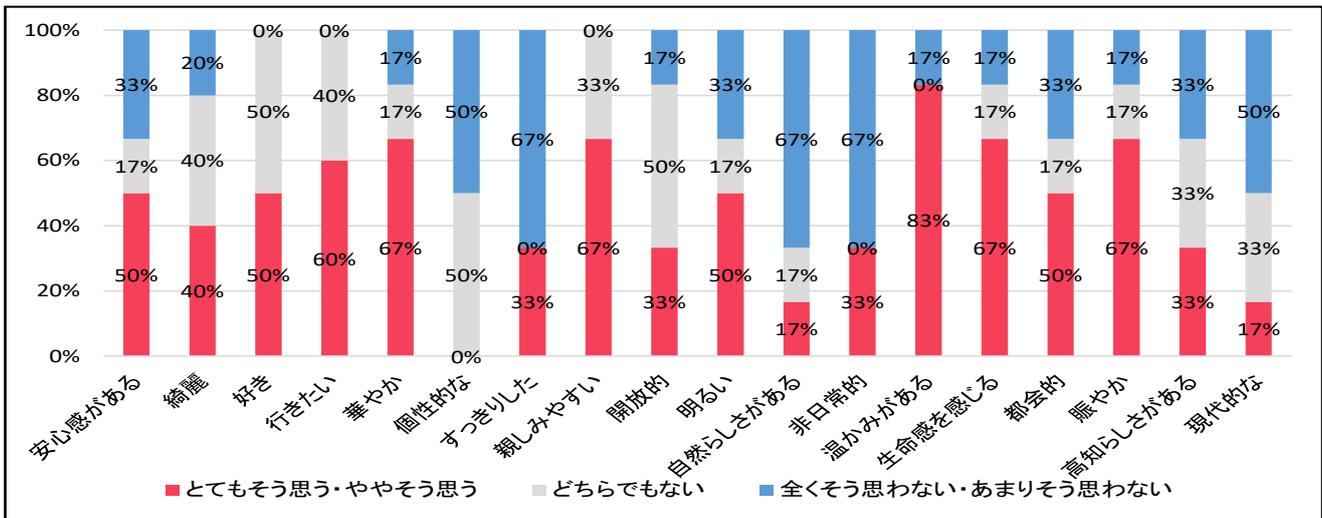


図12 クリスマス装飾時夜の景観：男性

9 考察

9-1 景観認識の男女差

総合的にみて、女性のほうが昼の景観を、男性のほうが夜の景観を好んでいると考えられた。

女性は、昼間は「アーケードに光が差し込んでいる」「天井がガラスで明るい」「街の中が明るい」というコメントや、夜は「アーケード内は街灯が多く、明るい」「看板のライトアップ」などを好ましいと感じるコメントが多くみられたことや【綺麗】【明るい】といった項目の評価が高かったことから、光やそれによって明るくなる場所を好むという事が挙げられる。

男性は特に、夜の景観で「昼間より人が多い」「活気がある」「高校生・仕事帰りのサラリーマンなど若い人が多いように感じる」といったコメントや、【賑やか】【好き】【開放的】といった項目に高得点をつけた人が多かったことから、多くの人がいて賑わう、都会的な景観を好むと考えられる。

男性は夜の明るく賑やかで都会的な景観を好む人が多い一方で、女性はその分、「中央公園の前の道が暗い」「キャッチのボーイが怖い」「暗く感じる」といったコメントがみられた。また、【安心感がある】の項目の評価が昼間の2分の1まで減少していたことも含めて考えると、街灯がない道や都会的な部分に怖さを感じる人が多いのではないかと考えられる。

9-2 景観認識の時間差

昼の景観は総合的に見て“人通りが少なく静かで、高知という田舎らしい景観”だと認識されている。その理由として以下のことが挙げられる。

まず、男女ともに【安心感がある】【親しみやすい】【高知らしさを感じる】といった項目を高く評価した人が多かった。さらに、景観評価アンケートの結果で「シャッター店が多い」「人が少ない」「商店街の色合いが地味」「店がしょぼい」と感じるコメントがみられたことや、夜の景観に比べて昼の景観は「買い物客が少ない」「若者が少ない」「人が少ない」というコメントもみられたことに加え、【賑やか】の項目の結果が低かったことが理由として挙げられる。

【高知らしさを感じる】の項目に高評価をつけた人が多かったことに関しては、帯屋町商店街の左右に吊るされている

坂本龍馬の旗が好ましく思われたことが影響していると考えられる。

夜の景観は“昼間よりは華やかで、賑わい・活気がある景観”だと認識されている。その理由として以下のことが挙げられる。

まず、男女ともに【明るい】【賑やか】といった項目を高く評価した人が多かった。また【華やか】【賑やか】【現代的な】の項目に関しては、昼の景観の評価の2倍以上となり、景観評価アンケートの結果では「昼よりも賑わっている」「人が多い」「照明によりアーケード内が明るい」という意見がみられたことが理由として挙げられる。

さらに、帯屋町一丁目商店街の店舗構成は“居酒屋”が2番目に多い14店舗であり、昼間は閉店していた店が、夜になると営業を始めシャッターが上がったことから「シャッター店が気にならなかった」「比較的シャッター店が少なく、寂しさを感じない」というコメントもみられ、活気があると感じる人が増えたのではないかと考えられる。

9-3 クリスマス装飾時と平日の景観認識の差

クリスマスツリーやイルミネーションといった装飾により、季節感がでた点、明るくなった点は好ましく思われていたが、総合的にみて、クリスマスの装飾時であっても「平凡な」景観だと認識されていると思われる。その理由として以下のことが挙げられる。

クリスマスの夜というものは、イルミネーションやクリスマスツリーなどの装飾が増え、煌びやかなイメージであるが、それは都会やテレビの中の世界であり、高知県の商店街ではそれには及ばなかったのではないかと考えられる。実際、景観評価アンケートの結果では、装飾が増えたことにより「商店街が色鮮やかで良い」や「明るい」「季節感があって良い」というコメントがみられたことから、クリスマス装飾時の昼間の景観の評価が上がったといえる。しかし、「クリスマスなのにイベント感がない」「多少のイルミネーションはあるものの、クリスマスらしい雰囲気を感じない」「中央公園の前以外の景色にあまり変化を感じない」というコメントがみられたことや、夜の景観に関しては【個性的な】

【都会的】の項目において、平日よりも評価が低くなっていたことが理由として挙げられる。

9-4 若者が集まる景観とはどうあるべきか

本研究で実施した景観評価アンケートの評価と、好ましいと思われる景観・好ましくないと思われる景観の結果により、若者が集まる景観とはどうあるべきかを考察した。

『機能・環境』面から分析した結果、「ゴミが散乱していない」「自転車の通行ルールが守られている」街が望ましいことが言える。『調和・美観』面から分析した結果、「自転車が整理整頓されている」「光が多く取り込まれたアーケード」が望ましいことが言える。『自然・人間』面から分析した結果、「様々な世代の人が行き交う商店街」「緑のある商店街」が望ましいことが言える。『都市性』の面から分析した結果、「シャッター店のない商店街」「賑わい、活気のある商店街」が望ましいことが言える。『文化』面から分析した結果、「装飾などにより高知県を感じられる商店街」が望ましいと考えられる。

10 本研究のまとめ

本研究で、以下のことが明らかとなった。

- ・女性のほうが昼の景観を、男性のほうが夜の景観を好んでいると考えられる。
- ・女性は光やそれによって明るくなる場所を好むと考えられ、男性は、多くの人がいて賑わう、都会的な景観を好むと考えられる。
- ・昼の景観は高知という田舎らしい景観だと認識されており、夜の景観は昼間よりは華やかで、活気があると認識されている。
- ・クリスマスの装飾により明るくなった点は好ましく思われていたが、帯屋町商店街では、都会やテレビの中の煌びやかさには及ばず、「平凡な」景観だと認識されている。
- ・好ましいと思われる景観、好ましくないと思われる景観を分析した結果、「ゴミが散乱していない」「自転車の交通ルールが守られ、整理整頓されている」「光で溢れるアーケード」「様々な年代の人が行き交っている」「シャッター店が少なく賑わい、活気がある」「装飾などにより、高知県を感じられる」という事が、若者が集まる景観づくりで重要であると考えられる。

11 謝辞

本研究を進めるにあたり、様々なご指導をいただきました馬淵泰教授に深く御礼申し上げます。また、景観評価実験にご協力をいただいた高知工科大学の学生の皆様、そして、約二年間ともに過ごし、研究を通じて多くのご指摘を下さいました馬淵研究室の皆様にご感謝いたします。

12 参考文献

- ◆ 『京都を事例とした景観評価実験と眼球運動の測定による好ましい屋上緑化形態の検討』
(田中健、村上大輔、下村孝、日緑工詩 133-138, 2008)
- ◆ 『都市における俯瞰夜景の景観認識に関する基礎的研究』(乙部暢宏、鍵野壮宏、後藤春彦、李永桓、李彰浩、日本建築学会計画系論文集 第 606 号 107-114, 2006)
- ◆ 『観光者の景観認識とその空間的傾向の分析—日比谷公園を事例として—』(杉本興運、日本観光研究学会第 25 回全国大会論文集 185-188, 2010)
- ◆ 『高知市中心市街地活性化基本計画：高知市ホームページ』
<http://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/attachment/41915.pdf>
(最終閲覧日 2018 年 2 月 15 日)
- ◆ 『平成 28 年度認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告：高知市ホームページ』
<http://www.city.kochi.kochi.jp/uploaded/attachment/55624.pdf>
(最終閲覧日 2018 年 2 月 15 日)